

第 29 回 札家連主催 ソフトボール大会 報告

障がい者がスポーツを通して体力をつけ、仲間づくりのきっかけとなることを目的に行っている札家連主催のソフトボール大会が今年も下記のとおり開催されました。

と き： 2019年9月30日(月) 9:00~16:30 ・ 10月7日(月) 9:30~14:30
ところ： コミュニティドーム「つどーむ」(東区栄町 885 番地 1)

開会式では【札幌市長杯】が昨年優勝の手稲病院デイケアチーム(手稲病院)から札幌市障がい福祉課松浦恭明課長代理の岸本職員に返還され、選手全員がラジオ体操で身体をほぐしたあと、病院デイケア・クリニック・支援センター通所者等で結成された 12 チーム、応援、スタッフなど、2 日間延べ人数 400 名が集まりトーナメント戦が始まりました。

一点差で決着する試合、大差で終了する試合など内容はまちまちで、打ち続けるチーム、ひたすら守り続けるチームそれぞれ大いにプレーしていることを楽しんでいる様子でした。

何とかバットをボールに当てて内野ゴロになり 1 塁に懸命に走るもアウトになった女子選手をベンチはハイタッチで迎え入れていました。守りではキャッチャーフライを懸命に追いかけ腹ばいになって取ろうとするも落球し、上半身土まみれになってしまった捕手がありました。応援では、選手一人一人の名前と顔写真を貼ったプラカードを作り、その選手がバッターボックスに立つたびに一斉に名前を叫んで声援しているチームがありました。

あるチームの男性コーチは攻撃中でも守りの時でも一人一人の選手に常に大声で声援し続けていました。よく聞こえるのでしばらく耳を傾けていると、ふとあることに気がきました。*それは選手がどんなプレーをしても結果に対し決して注意する言葉はなく、常に前向きに励ます言葉で元気づけているのです。「大丈夫、大丈夫、次はいけるよー」、「今でイんだよー」、「いいとこ行ってるよー」、「次につながるよー」と、聞いているだけで何かホッとするものがありました。*

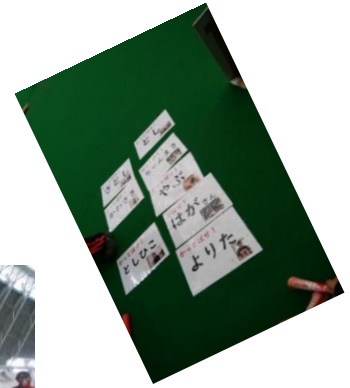
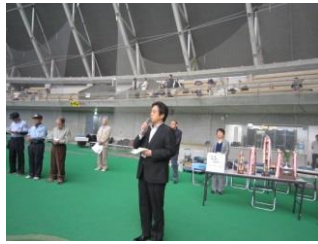
我が家でもこういう言葉で夫婦が会話をすればもっと穏やかな家庭になるのではと想いを馳せてしまいました。夫婦間ではどうもねぎらう言葉より注意する言葉が先に出てしまいます。70-40 家庭の食糧買い出しに車でスーパーに行くと、妻は野菜の積んである所でこれでもない、あれでもないとなの方から引っ張り出したりして選んでいます。時間がかかるので「上からさっさと取ればいいのに」と言うと機嫌が悪くなります。何か違いがあるらしい。食後溜まっている食器を私がせせと洗い「やっと洗い終えたぞ」と思っていると「やり方が雑だ」と言われる。今回の男性コーチの声援を聞いていて、是非見習いたいものだと思います。

決勝戦は投手戦から打撃戦へと移る白熱した試合展開となり、昨年優勝した「手稲病院デイケア(手稲病院)」が 4 対 1 で「TEAM-KOHSETSU(さっぽろ香雪病院)」を下し、連続優勝を果たしました。

結果講評では青野審判長より「第一試合の主審を試しに他のチームのスタッフが受け持ち、最後まで役目を為し終えたことには頼もしさを感じました。皆さんと協議して改正してきた独自のルールを守る努力をされ、競技レベルの向上を毎年感じています」札家連・菅原会長からは「日ごろの練習で鍛えた体力を目の当たりにしてこちらにも元気をもらえました」とのことで 2 日間にわたる大会は終了しました。



大会運営にご協力いただいたソフトボール協会の審判団の方々、吉田学園北海道福祉大学の学生さん、ボランティアの方々、「白い恋人」を寄贈して頂いた ISHIYA 様、皆様に心から感謝申し上げます。



**第10回ソーシャルフットボールサポーターズカップ
12月21日(土)札幌市北区体育館で開催します!**

精神障がい者を中心としたフットサルの大会。精神障がい者の当事者チーム・健常者チーム・混合チーム様々な構成チームの大会です。ぜひみなさん応援にいきましょう

